

言語技術の効果的な活用・言語活動の充実を図った
国語科の授業実践例

世羅町立世羅中学校

- 1 学年・単元名 第3学年 本の世界を広げよう 「高瀬舟」
- 2 本時の目標 会話と語りから、喜助に対する庄兵衛の心情を読み取り、人間の生き方について考えることができる。
- 3 本時の工夫点 「情報を的確に分析する技術」を活用して、テキストから必要な情報を取り出し、取り出した情報を根拠に、喜助に対する庄兵衛の心情を読み取らせる。
情報と自分の知識や考え方を結びつけ、「受け答えをする技術」を活用して「安楽死」の是非について、自分の意見を書き、意見交流を図らせる。
- 4 学習の展開

| 学習活動 | 指導上の留意事項 | 評価規準 (評価方法) |
|--|---|--|
| (1) 課題設定 会話と語りから、喜助に対する庄兵衛の心情を読み取り、人間の生き方について考えよう。 | | |
| (2) 個人思考 分析 書く活動 庄兵衛が喜助の話(島へ行く心境)を聞いたあと、「喜助の顔から毫光が差すように思った」のはなぜか、理由をワークシートに書く。 | <p>情報を的確に分析する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語りから、喜助に対する庄兵衛の心情が読みとれる表現を抜き出す。 ・表現をもとに、庄兵衛と喜助の生き方の違いをとらえ、庄兵衛の心情を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・語りから喜助に対する庄兵衛の心情を読み取り、心情を書いている。 (行動観察) (ワークシート) |
| (3) 集団思考 交流 分析 交流 書いたものをもとに意見を交流し、話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章中の表現を根拠に考えて発表させる。 ・庄兵衛と喜助の生き方を対比させて、喜助の「知足」の生き方をとらえさせる。 | |
| 喜助の話(弟殺しのいきさつ)を聞いたあとで、庄兵衛が「腑に落ちぬもの」として感じたのはどのようなことかを読み取り、発表する。 | <p>情報を的確に分析する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語りから、庄兵衛が「腑に落ちぬもの」として感じたことをとらえる。 | |
| (4) 個人思考 問答 書く活動 自分だったら「お奉行様の判断」をそのまま自分の判断にする(有罪)かしない(無罪)か、立場を明確にしてその理由をワークシートに書く。 | <p>受け答えをする技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章中の表現を根拠に、情報と自分の知識や考え方を結びつけ、「安楽死」の是非について、立場を明確にし、自分の意見を書く。 ・自分の意見が相手にわかりやすく伝わるように、結論先行で、根拠を明確にして書く。 | |
| (5) 集団思考 交流 書いたものをもとに意見を交流し、話し合う。 | <p>受け答えをする技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結論先行で、根拠を明確にし、相手に分かりやすく話す。 | |
| (6) まとめ 意見交流をもとに、喜助は有罪か無罪かもう一度考え、自分の考えをワークシートにまとめる。 書く活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・「無罪の方が幸せだろうか。」等の揺さぶりの発問をし、多様な視点から考えるよう促す。 | |

